

2022 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

聖心女子大学

2023 年 3 月

聖心女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ 聖心女子大学 現代教養学部
 - 英語文化コミュニケーション学科
 - 日本語日本文学科
 - 史学科
 - 哲学科
 - 教育学科教育学専攻
 - 教育学科初等教育学専攻

大学としての全体評価

聖心女子大学はマグダレナ・ソフィア・バラが 1801 年にフランスで創立した聖心女子学院の教育理念に基づいて、設立された大学である。教員養成機関はマグダレナ・ソフィア・バラが強く心惹かれていたものであり、聖心女子大学の教職課程を通じて質の高い教員を社会に輩出することは、本学の使命でもある。このような背景のもと、本学ではこれまで教職課程の充実に向けた取り組みを全学を挙げて重ねてきた。聖心女子大学がこれまで大切にしてきた「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛する」という教育理念を教職員自ら実行し、全人教育を進める教員になっていく素地を学生に形成するような有意義な教職課程を展開している。18 歳若者人口が減少する中、教職課程が抱える課題は山積するが、今後も自己研鑽・相互研鑽を重ねていくことが目指される。

聖心女子大学

学長 高祖 敏明

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価	12
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：聖心女子大学

(2) 学部名

現代教養学部

英語文化コミュニケーション学科、日本語日本文学科、史学科、哲学科、教育学科教育学専攻、教育学科初等教育学専攻

(3) 所在地：東京都渋谷区広尾4-3-1

(4) 学生数及び教員数

(2022年5月1日現在)

学生数：

現代教養学部 教職課程履修 307名／学部全体 2,336名

教員数：

現代教養学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）30名／学部全体 76名

2 特色

全学科から教員が参加し副学長（学務・大学院担当）も参加し、加えて全学の教務課とともに構成される教職課程委員という全学組織という構造面、教職課程委員間での定期的および必要に応じた柔軟な時期での議論と情報共有という運用面、そして、聖心女子大学がこれまで大切にしてきた「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛する」という教育理念を教職員自ら実行してきた風土面等、学生一人一人のよさを引き出す教職課程を展開している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

全学科からの 1 名ないしは 3 名の教員が所属する教職課程委員会の開催により共有を図っている。(資料 1-1-1)

特に、年度始めにその年度の第 1 回教職課程委員会を開催し、教職員間での教職課程教育の目的・目標の共有を図っている。(資料 1-1-2)

そして、教職課程に関する手引きの作成・配布により共有を図っている。(資料 1-1-3)

非常勤講師が担当する科目については、非常勤講師連絡会の開催等、非常勤講師との共通理解を促進させる取り組みを展開している。(資料 1-1-4)

各学科では、学科会議等を通して、各学科の教職課程委員から学科の教員全体に共有化が行われている。(資料 1-1-5)

〔長所・特色〕

学生向けの教職課程に関する手引きを教職員にも配布することにより、共通理解を教職員間だけでなく、学生とも共有することができている。

全学科からの代表教員が構成員となる教職課程委員会の運営により、共有が図りやすくなっており、加えて ICT を活用して必要情報のオンラインでの共有化を図り、効率的・実質的な共有を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程に関する手引きをより見やすく、理解しやすい構成・デザインとなるよ

う、年々、改訂を加えていく。

共有方法のより良い在り方について、教職課程委員および教務課と振り返りを行い、改善につなげる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 教職課程委員会規程
 - ・資料 1-1-2 : 第 1 回教職課程委員会議事録 (一部 : 日付がわかる箇所)
 - ・資料 1-1-3 : 教職課程に関する手引き (一部)
 - ・資料 1-1-4 : 教育学科非常勤講師連絡会資料 (一部)
 - ・資料 1-1-5 : 教育学科学科会議議事録 (一部)
-

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

全学科からの代表教員が構成員となる教職課程委員会を設置している。教務課が事務を担当し、教職員間の情報共有等を支えている。(資料 1-2-1)

通常、各学科から 1 名ずつの教職課程委員の配置であるが、多くの教職課程を担う教育学科からは 3 名の教職課程委員を配置している。(資料 1-2-1)

多くの教職課程を担う教育学科と教務課との位置を近くに配置し、迅速で丁寧なコミュニケーションを取ることができるようにしている。加えて、電子メールやビデオ会議など ICT を活用して教職課程委員間および教務課間の柔軟なコミュニケーションを取ることができるようにしている。

〔長所・特色〕

全学科からの代表教員が構成員となる教職課程委員会の運営により、連携が図りやすい。

幼児教育・初等教育・中等教育を専門とする教員が多い教育学科から 3 名の教職課程委員を配置し、社会的変化に迅速かつ柔軟に対応する教職課程の再編成を可能としている。

事務担当の責任部署が明確であり、教職員間の連携が迅速・丁寧に進められる。

〔取り組み上の課題〕

教職課程委員となる教職員が交代する際の引継ぎの効率性と実質性を向上させるべく、情報共有の方法を年々、改善していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 教職課程委員会規程

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

【学外】：大学案内、オープンキャンパス、Web サイト等を通して、本学の教職課程の魅力を発信し、学生の確保に努めている。(資料2-1-1)

【学内】：2年次からの教職課程履修に際し、1年次生を対象とした教職課程に関するガイダンスや説明会・相談会を開催し、本学の教職課程の魅力を発信し、学生の確保に努めている。(資料2-1-2) (資料2-1-3) (資料2-1-4)

幼稚園・小学校の免許取得が必須となる教育学科初等教育学専攻に進学する学生については、志望理由書の提出や、必要に応じて面接の実施を行っている。(資料2-1-5)

小学校および中学・高校の教職課程の同時履修については、GPA等、一定の条件をつけ、質の確保を行っている。(資料2-1-6)

「基準領域3 適切な教職課程カリキュラム」に記載のとおり、実質的なカリキュラムの展開により、丁寧な学生育成を進めている。

〔長所・特色〕

1年次生を対象とした教職課程に関するガイダンスや説明会・相談会により、多様な学生への細やかな対応を行い、学生の質の確保・育成につなげている。

〔取り組み上の課題〕

18歳人口をはじめとした若者人口の減少にともない、学生確保が難しくなっている。教職課程も含め、全学的な学生の確保・育成に努める。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内、オープンキャンパス用立て看板、Web サイト等（一部）
- ・資料2-1-2：1年次生向け教職課程ガイダンス配布資料
- ・資料2-1-3：1年次生向け学科専攻説明会のお知らせ（学科説明会の一部として教職課程の説明会）
- ・資料2-1-4：1年次生向け教育学科相談会のお知らせ
- ・資料2-1-5：教育学科初等教育学専攻 受け入れ評価基準表
- ・資料2-1-6：小中高免許同時履修の資料

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

教職・保育士課程室を設置し、専門スタッフを配置し、キャリア相談や、学校ボランティア情報の提供、教員採用試験対策等のキャリア支援を進めている。（資料2-2-1）

キャリアセンターと連携し、現職教職員による講演や、自治体の教育委員会による説明会等の開催、学校ボランティア情報や教員採用情報の提供を進めている。（資料2-2-2）

コロナ禍の影響で二年間ほど開催が見送られているが、学校現場に勤務する本学卒業生の集いである「聖心こまち会」の交流会を、例年学園祭にて開催し、卒業後のキャリア支援にも役立てている。（資料2-2-3）

教職課程において学校現場の実践に触れる機会のある科目を設置し、学校現場とのつながりが多い教員により、教職の具体的なキャリア形成の支援につなげている。（資料2-2-4）

〔長所・特色〕

教職・保育士課程室スタッフは、学校での教員経験のある者が務め、社会状況に対応した実践的な支援を行っている。対面での支援とともに ICT を活用した取り組みも並行し、学生支援の多様なアプローチを行っている。(資料2-2-5)

キャリアセンターが運用する進路支援システム「Torch」を学生に利用してもらうことにより、キャリアカウンセリングの申し込みや、教員採用情報の獲得等を効率的・実質的なものに行っている。(資料2-2-6)

公立・私立・国立の学校とのつながりを活かして、キャリア支援を行っている。

〔取り組み上の課題〕

より多様な自治体教育委員会や学校との連携を図るよう、年々、取組を改善させている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：教職・保育士課程室の案内
- ・資料2-2-2：キャリアセンターによる各種案内、大学推薦枠関連情報
- ・資料2-2-3：研究室だより（聖心こまち会についてのページ）
- ・資料2-2-4：学校現場での学習をすることがわかる科目のシラバス（教育実習を除く）
- ・資料2-2-5：Google Classroom「教職・保育士課程室」の画面
- ・資料2-2-6：「Torch」のトップ画面

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教職課程カリキュラムの編成にあたっては、教職コアカリキュラムにのっとり、適切な科目・内容を配置している。(資料3-1-1)

幼児教育、初等教育、中等教育にかかわる教職課程を配置し、理論と実践を往還させたカリキュラムを展開している。(資料3-1-2)

教職課程委員間での意見交換、教職課程委員会での議論、(教職科目に限らないが教職科目も含まれる)「学生による授業評価アンケート」の結果や教員による自己評価などを通して各科目および課程全体の改善サイクル(PDCA)を回している。(資料3-1-3)

〔長所・特色〕

幼児・児童・生徒の発達の特徴を始めとした「子どもの理解」を大切にした「一人一人を大切にする」教育を担う教員を育成することを重視している。(資料3-1-2)

教職課程履修生とコミュニケーションをとることが多い教職・保育士課程室スタッフと教職員との意見交換や、教職員が実施する教職課程履修生との個別面談を丁寧に行っており、学生の多様なニーズやつまずきの早期発見・早期対応を柔軟かつ迅速に行っている。(資料3-1-4)

教職課程を置く学科あるいは全学のディプロマ・ポリシーと各教職科目の学習目標(Learning Outcomes)との間の整合性を検討し、聖心女子大学ならではの教職課程の質の向上を目指している。(資料3-1-5)

〔取り組み上の課題〕

本学は入学直後の1年間(1年次生)において「基礎課程」に所属する形をとり、

学科専攻決定が 2 年次に進級する際となる。そのため、一部の教職科目は 1 年次生も履修可能であるが、基本的には教職課程を 2 年次から履修するデザインとなっている。それに伴い、3 年間での教職課程修了という教職科目編成の制約が発生している。これへの対応は行っているが、今後もさらなる検討が必要である。

教員採用試験の早期実施、およびそれにとまなう教育実習の早期実施を視野に入れることも大切である。

また、感染症を始めとした社会情勢の影響を受け、教職課程において学校等の現場に出かける実践的な学習にも制約が生じている。社会情勢をうかがいながら、学生および社会のリスクを下げる工夫を徹底し、実践的学習を充実させるための検討を重ねたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：教職コアカリキュラムに関する教務課からの通知文書
- ・資料 3-1-2：教育学科初等教育学専攻ディプロマ・ポリシー
- ・資料 3-1-3：教職課程委員会議事録（の中で、教職課程の改善に関する内容が伺えるもの）、教職科目担当教員による授業の自己評価報告書の一部
- ・資料 3-1-4：個別面談を実施していることがわかる教学支援システム「Sophie」上の掲示など
- ・資料 3-1-5：現在教務委員会を中心に進められているディプロマ・ポリシーと各科目との対応表の内、教職科目に関する箇所（一部）

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学教職課程では次の 3 つの方向から実践的指導力の育成と地域との連携を図っている。

- (1) 地域の学校（園）への訪問による学び（参考資料 3-2-1）

教育実習の事前指導にあたる「教育実習指導」（3年次後期開講科目）の授業の一環として、地域の学校（園）に出向き、学校（園）生活や授業（保育）の参観を行い、大学内における理論的学びと実際の学校（園）現場における実践的学びの融合を図っている。

（2）地域の人材や現職教員の講話による学び

教職実践演習及び教育実習指導では、現職教員を授業に招き、生の教育現場からの学びを重視している。「教育実習指導 1」では現職の中学・高校の教員による大学での模擬授業、および教育実習に関する講話を賜っている。「教育実習指導 3」では、卒業生でもある幼稚園運営者が教育実習及び教育実習生に期待していることの講話を聴き、教育実習への構えを身につけるようにしている。

（3）渋谷区との連携（参考資料3-2-2）

大学が所在する渋谷区教育委員会では、スクール・アシスタント・メンバーズ（通称 SAM）の事業を展開しており、本学からも毎年複数の学生が小学校や幼稚園現場で授業や保育のサポートに当たり、現場における体験的な学びを積み重ねている。

〔長所・特色〕

本学教職課程は幼・小・中・高の各校種ともに教職に対する強い意志と意欲をもつ少人数の学生が履修しており、教育現場とのつながりを自分の資質能力の醸成につなげようと積極的に取り組んでいる。履修者が少人数であるために、近隣の学校や園との連携もとりやすく、現場も授業参観や保育参観を受け入れやすいと思われる。

〔取り組み上の課題〕

感染症を始めとした社会情勢の影響を受け、学校（園）への訪問に関して制約を受けている状況下にあるが、訪問は学生の学修効果が極めて高く、状況を見ながら訪問による学びを展開する。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 : シラバス 教育実習指導 1 (中学・高校)、同 2 (小学校)、
同 3 (幼稚園)、教職実践演習、保育・教職実践演習
- ・資料 3-2-2 : 渋谷区スクール・アシスタント・メンバーズ (通称 SAM プラ
ン)

Ⅲ. 総合評価

学内外のリソースを活用し実質的な教職課程が展開できていると考える。全学的な体制づくりも充実してきており、今後ますますの PDCA サイクルによりさらなる充実を図ることができると思う。

一方、感染症等の社会情勢、若者人口の減少や教師不足や働き方改革等の社会動向等を背景に、今後、教職課程を柔軟に対応させていくことが望まれる。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

「教職課程に関する自己点検・評価の実施方針」にもとづいて、教職課程委員会の構成メンバーである教職課程委員長と教育学科教職課程委員が中心となり「教職課程に関する自己点検・評価報告書」素案を作成した。その後、他学科の教職課程委員および学務部教務課の協力を得て加筆してもらい、第一原案を完成させた。その第一原案を教職課程委員会（副学長（学務・大学院担当）を含む）にて検討・修正し承認されたものを第二原案とした。その第二原案を全学評価委員会（学長を含む）に諮り、承認された。

V 現況基礎データ一覧

2022年5月1日現在

法人名 学校法人 聖心女子学院					
大学・学部名 聖心女子大学 現代教養学部					
学科・コース名（必要な場合） 英語文化コミュニケーション学科、日本語日本文学科、史学科、哲学科、 教育学科教育学専攻、教育学科初等教育学専攻					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					603名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					493名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					81名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					25名
④のうち、正規採用者数					21名
④のうち、臨時的任用者数					4名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(非常勤講師)
教員数	45名	17名	10名	4名	267名
相談員・支援員など専門職員数 3名					